夕刊
四月二十八日發行
定價 一ヶ月金六十五錢 發行所 磐城新聞合資會社
(日曜祭日翌日休刊) 東京振替一〇八五五六番

故里の春を偲ぶ

松崎英二

三

私はいつも、ボツトフの言葉を想ひ出す『資本主義はチビリザチオンを作つたがクルツールを作らなかつた』と、淋しく思ふが、いたしかたない事ではある。せめて故里の歌壇と野麥の發展を心から祈る次第である。

○

企見子さんが亡くなられた、英尾君も企見子さんの突然の死去に就いて、磐城新聞紙上に書かれてあるが私は從姉として企見子さんの訃報を手にした時、何かの間違ではなからうかと思つた位である。若い人の死はど愕然とするものはない、殘された人の悲しみもさることながら、亡くなられた企見子さんの心には、さぞかし思ひ殘す事の多分にあつたであらう事を思へば一しほ深く感へさせられるのである

磐城新聞に載せられてある遺稿の一首に

庭先のあした涼しき松かげに、うつむき咲ける白百合の花

と、あるが、その白百合の花にも、たとへる樣な感じのする、線の細い人だつた昨日アルバムを一寸開いてみたら、何時の夏だつたか四倉の避暑地で保高さんと二人で並んで居るのを私が撮つた寫眞が一枚あつた、寫眞はニツコリと笑つてゐる、此んなに早く逝かれるであらう等と、夢にも思はれぬ美しい微笑をたゝへて磐城新聞に遺稿が載せられてあるが、此の道の好きだつた企見子さんはきつと、よろこんで居られるだらう、そして瞑せられるに違ひない何かの機會に遺稿が若し一つの歌集にでも成される樣な時があつたら、私がその歌集に題したい『情春譜』もその題の候補の一つに算へていたゞきたいものである（終）

野良路

野良路薄暮

春霞の空はたそがれて
野良の細路を
吾は急ぎぬ
遠山脈は夢に泛びて
消わせぬ白雪、餘光に赤し
金援色あせ
大日靜に西山に沈む
あわれ落日の弔歌か
さもなくば晩春の挽歌か
蛙が、おけらが音
その音無限の悲哀を秘めて
凋落の感をそゝる
センチなるメロディー
大日已に沈したそがれの路は
薄暮の空に流らへり

若き日

片岡照治

若き日の黄昏時
あの丘に友と語らひて
夢見し頃のなつかしき
人の世の惱みも知らで
はるけき都の空を夢見る
憧がれど若き日の
思出の丘に花咲けど
昔は返らずなりぬ
若き日のひたに戀しく
語りし友も今は逝く
波にもまれし若き日の
夢の色あせにけり
歸らぬ：若き日
吾姿の慘めなるか
今宵も思出の丘に
銀鋲の如星瞬くなん

『足跡』

八乙女紘宵

○なぎさへの足跡なれば消ゆるせもあれ我が足跡の消ゆる日はなし
○とことはに消し得ぬ己が足跡に五年の月日思ひくやみぬ

久慈亭二

○わが仕事手につかずして疲れのみ我が身にありて悲しかりけり
○戀すとも言はで過ぎにし日頃かもめでたく嫁くと言ふ噂なり

志加節

○書讀むは夜こそよけれ我が息の聞ゆるが如くもの音なし

4月30日

△源義經衣川舘に死す（文治五）△足利尊氏歿（正平一三）△樞密院創設（明治二一）△英將ウエリントン生る（一、七六九）

4月29日

△天長節、代々木原頭に觀兵式△飛行機の發明家二宮忠八滑走試驗を行ふ（明治二四）△鞍山製鐵所熔礦爐に點火（大正八）

伊達政宗像

珠雲・小野務平

勇武絶倫開四疆
百年支得大藩長
英雄畢竟多翻覆
仰見威手滅氣昂

講談 妖刀流轉（ようとうるてん）

(74) 邑井貞吉演 佐々木今朝吉畫

古傷の仲間（二）

この聲を聞つけて新七は軍藏に負ぶはれ兩眼を押へた儘

新『さういふ聲は兄上で御座りますか』

嘉平次は言葉も忙しく

嘉『オウ新七、確固いたせ、この體は一體何うしたのぢや』

と尋ねる、機敏な軍藏、さてはこの人が嘉平次だなと思つたから

軍『御挨拶は後に申上げますが、新七殿には多勢の敵に取まかれ、御苦戰の最中を、折よく拙者通り合せて急場へ驅つけ、兎も角狼籍の者共は追拂ひましたが、彼等は卑怯にも遠方より礫を投げつけ、それが新七殿の面部に當り、何うやら兩眼をお痛めの樣子、猶豫いたして手當を遅らせては相成りませぬ、一刻も早くお宅へお伴ひ致す方がよろしう御座る』

云はれて嘉平次も始めて氣がつき

嘉『心急く儘御挨拶もいたさず、失禮の段御免下され然らば貴殿がおかけつけ下されて弟の急を御救ひ下されしかそれのみならず御ら親切の御介抱千萬忝なく御禮申す、コレ文助、その方替つて新七を負ぶつて呉れ！』

文『かしこまりました、ヘイ、貴方樣何うも有難う存じます、サア若旦那、私がお負ひ申しませう』

軍『イヤ〳〵、左樣ならば手前と拙者と兩人で擔つて參らう、その方が新七殿を幾分樂で御座らうから』

文『左樣ですか、それでは私が足の方を持つて先へ參りますから、貴方樣は頭を抱へて後からおいで下さいまし』

軍『承知いたした、サア〳〵早く〳〵』

嘉『何とも恐縮の至りで御座る、コレ新七確固いたせ！』

嘉平次は提灯をさげて附添ひながら、氣遣はし氣に弟の顔を覗き三人で大急ぎで眞傷の新七を舁ぎ込んだ遠藤の家、家内一同も心配してゐるところへ此の始末だから、サア家中の騒ぎになり、おこよなどは新七の血だらけな有樣を見るとハツと顚倒して了つた、オロ〳〵マゴ〳〵するばかり、取敢ず新七の居間へ舁ぎ込み仲間の文助が醫者を迎へに走つて行く、嘉平次を始め家の人は皆な新七の周圍へ附つきりで、水で兩眼を洗つてやるやら傷の手當をしたり、着物をかへさせたり頭を冷すなどゴタ〳〵してゐる

軍藏は縁側へ腰かけた儘手持無沙汰、長途の旅で疲れてもゐるし、グツタリとして休んで居る

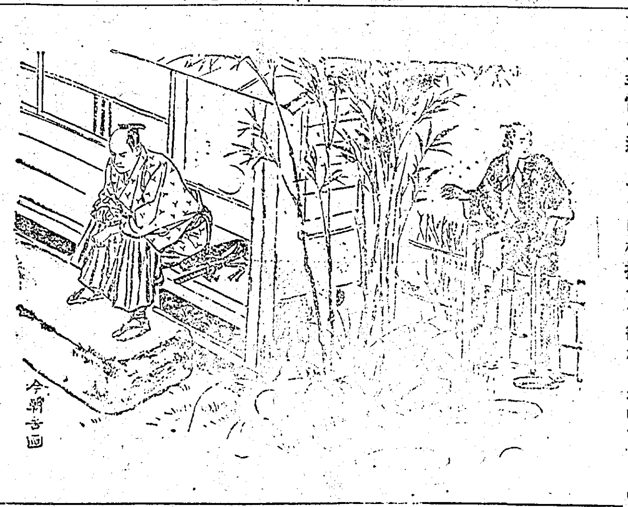
仲間の知らせに醫者もスウグと來た樣子、新七の苦しさうな呻き聲が襖の間から洩れて來ます、汗をかきながら裏手の垣の柴折戸をあけ庭の方を廻つて入つて來たのは、今醫者を迎へに行つて來た仲間の文助で四圍を見廻すと、此方の縁側に休んでゐる軍藏の傍へ近づき

文『渡瀨の若旦那、何うしましたえ』

と聲をかけた。軍藏がギクリとしてよく見ると、豈計らんやこれは向疵の熊吉軍藏は餘りの意外に呆れまして

軍『オウ、お前は熊吉、イヤ珍らしい處で廻り會つたものだが、全體あれから何うしたした』

熊『イヤ何うしたと聞き度いのはお互でさあ、何から話をしていゝやら、兎にも角にもお前さんの前だが、あんな酷い目に遭つた事は無かつたね、高い聲では話せねえが、鶏聲ヶ窪の幽靈屋敷、穴藏の中の隱れ場所を誰知るものも有るめえとは思つてゐたが此方の油斷あゝ今思ひ出しても身慄ひが出る』


今朝吉画

株ハ一株ヨリ、債券ハ一枚カラ賣買致シマス。
支那株式店
平町三丁目 電話一七七番

互融會事業近況
報告（昭和十二年三月中）
融通口數 三九口
滿期拂戻口數 一七〇口
事業報告 三月末
會員數 六、五七〇口
世帶數 四、四一四戸
積立金 夳五、五三一、一〇
融通口數 一、五六六口
融通金額 卆三、五〇五、一七
融通金回收額 二八、三五五、一〇
滿期拂戻口數 四五口
滿期拂戻金額 二、〇三五、〇〇

一、社會公共事業及慈善事業ヘノ奉仕
一、精神修養講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互ノ扶助
一、人事相談及婚姻ノ媒介
一、診療救恤ノ補償
一、税金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勤倹日積立金ノ奬勵
一、小資本金ノ相互融通

太平火災海上保險株式會社中央代理店
石城中小商工互融會
事務所 福島縣平町揺槌小路一番地
小名濱方部 小名濱町古湊
湯本方部 湯本町天王崎
菊田方部
相双支部 原町東一番町

平町田町
高久病院 （電話五三一番）
内科 外科 耳鼻咽喉科 小兒科 花柳病科 レントゲン科
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄

和洋 建具 家具 テーブル 椅子 其他裝飾品一般
御用命は迅速に御努め致します。

諸官衙 各學校 御用達
製作販賣
平町五丁目四
㊕ 片寄製作店
片寄小彌太 電話四八四番

内臓外科一般 外科花柳病科 （入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

夜間診療 （見習看護婦募集）
胃腸病
内科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科 専門
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）

耳鼻咽喉科 専門
平町南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番
（入院隨意 病室完備）

ほねつぎ
桑原柔道整骨院
平町公園下 電話六七四
神經痛 リウマチス ニ オレンヂパスタ

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
和洋銅物 金物問屋
㊇ 釜屋商店
磐城國平町五丁目 電話九番 九九番
振替貯金口座 東京一〇、九五六番
確實敏捷は㊇の生命なり

時代の要求 皆樣の足!!
尼子タクシーへ!!
豆タクシーが入りました
御支配から玄關へ…迅速簡便
是非御利用を……
市内…三〇錢 市外…四割引
流線型セダン、大型貸切バス
官行ー直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。
平町二丁目
尼子自動車商會
電話六四〇番

新車のおしらせ
斷然!!! 乗心地良い!!!
ベビーフォード
入車いたしました。
是非! 御試乗の程を!
豆タクの……
スヾキタクシー
市内四〇錢…市外二割引
電二一七番

鮫川砂利採取及販賣
砂利……川部村沼部
砂利採取揚場……山田村法田
玉石……植田鮫川橋下
貨物自動車運搬業、有價證券、株式債券賣買及仲介、商品依托販賣、千代田生命、千代田火災保險代理店
常磐線植田町
植田物産株式會社
取締役 山崎登
電話三一番

各種貨物一般及重量機械類運搬取扱
石城郡錦村中田
植田物産錦出張所
電話（植田）一三五番

靈効散
胃腸藥
を御試し下さい
胃腸を害ね或は下痢をしたり或は三日も四日も便通がなくて頭痛を覺ゆる御方はキ、メの早い
胃腸病。心臓病。腦。痔。淋疾藥
三年五年と患ふ慢性胃腸病が全快した人が澤山あります御望の方には見本藥一日分を差上げますから御遠慮なく御來局下さい。
平町古鍛冶町照社ノ下
處方調劑所 岡康藥局
電話四四番 振替口座東京三〇〇六番
定價 一八日分 五十錢 廿日分 壹圓
御子樣方には飲み易い小兒靈効散があります。

お醤油は……ヤマフル
味噌 醤油 たひら正宗 鰹節 食料品
醸造元 山崎屋
山崎合名會社
磐城平町
電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

ゴールへあと一日！
世は正に總選擧一色
火を吐く言論、亂れ飛ぶ文書
＝六戰士最後の奮戰＝

明二十九日、明くれば愈よ國民總動員の審判の日である、第三區から立候補の逐鹿戰士六名は輝く三つの議席をめざして必死の活動、最後の言論戰に入つた、これに對應し町當局は『主張を選べ、人物を選べ』を強調し或は棄權防止を要望して極力肅正選擧の徹底を期す一方、檢察陣營も頗る緊張を呈してゐる、さすがに選擧好きの地方民とて投票の日の緊迫と共に、選擧ファンの熱はいやが上にも高潮し早や總選擧一色に塗りつぶした感がある、死物狂ひの六候補は今明日中最後の言論戰を展開して有權者の同情にすがり、また最後の懇願をこめた第三者からの推薦狀が亂れ飛ぶ――泣くも笑ふもあす一日きりである

鈴木派（二十八日）正午平町世界館　午後一時請戸　三時大堀　三時半浪江　三時津島　三時苅野　七時半日立木　六時半中村　七時半原釜（二十九日）午後二時大日本炭礦　六時半植田菊田座　午前十一時内郷第三校　午後一時渡戸小學校　午後三時永井校　午後七時半好間好樂館　午後七時半平町長橋性源寺　午後六時半久保町高木キャス方　午後七時五十分新川町大神宮　午後七時熊野神社

比佐派（二十八日）午後一時錦校　泉校　午後六時平窪校（二十九日）午後一時赤井第二校　小川校　午後六時平町聚樂館　内郷昭和館

星派（二十八日）午後一時山田村本校　二時川部村公會堂　六時錦校　三時勿來第一校　四時勿來第二校　六時植田菊田座（二十九日）午後三時四倉小學校　四時好間好樂館　六時平町世界館　小名濱磐城座

華胄界の新人
松平氏 鈴木候補應援
各所に舌戰けふ中村へ

華胄界の新人として知られてゐる元東宮職出仕松平直鎮氏（越後糸魚川舊藩公の男）は鈴木候補應援の爲元上海日報主幹財津愛造氏と共に去る二十五日來平、二十六日磐中に於て同校生徒の爲兩氏とも一場の講演をなし其後引續き各所に舌戰を續けてゐるが、今廿八日は正午から世界館に於て最後の獅子吼を試み中村町に向つた

不在投票のトップ
鐵道關係も二十餘名

平町の不在投票は今二十八日午前十時半堂の前植木職鯨岡徹二氏がトップを切つた　尙平機關區、同車掌區でも今明日中一齊に行はれる筈だが全部で二十餘名あると

開票區別町村

總選擧の開票は平、下小川、植田、中村、原町が五月一日、双葉が翌二日であるが開票區別町村は左の如くである

〔平開票區〕平　飯野　夏井　高久　豐間　鹿島　内郷　好間　神谷　草野　大浦　四倉

〔植田開票區〕泉　渡邊　植田　山田　錦　勿來　上遠野　入遠野　川部　田人　荷路夫　貝泊　石住　江名　小名濱　玉川　磐崎　湯本

〔下小川開票區〕赤井　永戸　箕輪　澤渡　三阪　上小川　下小川　川前　大野　平窪

〔中村開票區〕中村　大野　飯豐　八幡　山上　玉野　日立木　磯部　駒ケ嶺　新地　福田　八澤　上眞野　鹿島

〔原町開票區〕眞野　高平　原町　石神　太田　大甕　小高　福浦　金房　新舘　大須　飯曾　石橋

報酬を要求す
中原遂に自白

平署では數日來湯本町日雇業中原四郎(三九)平町三丁目駒木根忠敬(三六)の兩名を引致した、最初は選擧には關係がないと頑張つてゐたが遂ひに包み切れず自白狀した　中原は廿五日午後七時ごろ平町三丁目カフエー蛇の目方で第三區某候補者の勞務者である駒木根に對し內郷村炭坑では相當纏めて票を集められる事が出來るからその報酬をくれと持込んだがあつさり拒絕されたもので背後關係はない模樣である

投票の當日は國旗を揭げよ

平町では來る三十日の投票當日は各戶毎國旗を揭揚するやう昨二十七日町內各區に周知方を依賴した

本格的製作に備へ「軍需品檢查場建設」
意氣込む平鐵工組合

平鐵工機械同業組合では時局の波に乘つて既に若干の軍需品の製作を開始したが既報の如く更に軍需品檢查場を建設して本格的製作に乘出すことになり　平町田町の組合事務所裏に敷地を選定、經費二萬圓のうち半額は國庫負擔半額は組合理事九名の連帶保證によつて中央金庫から融資を受けることになつた　このため二十五日總會を開き理事の任期二ケ年を三ケ年に延長することを可決、來月上旬から檢查場建設に着手する

鰹漁近づく
磐城丸出動

弗々高溫の海流に乘つて東進する鰹漁を目指して本縣遠洋大型漁船十隻は愈よ來月上旬江名漁港を出帆伊豆七島方面の漁場に向ふがこれに先だち縣指導船磐城丸は漁場調查かた／＼明廿九日小名濱を出港同方面に急航する　鰹漁の東進は例年より暖流が強く流れてゐるため十日以上も早目に東進するものと見られ且つ好調を傳へられてゐるだけに漁船隊は早くも期待してゐる

。。山神祭。。

磐城セメント四倉工場の山神祭を二十八、九の兩日執行、餘興は活動　花火

小名水工 株主總會
配當年六分据置

小名濱町磐城水産工業株式會社の株主總會は二十五日同社內に開き年六分据置の株主配當案を可決した　當期純益金一萬三百五十圓三十六錢で九百三十圓五十八錢を後期へ繰越した

玉川忠魂祭

玉川村の忠魂祭は例年四月二十五日に擧行されてゐたが選擧に際し來月三日午前九時から同村館山で擧行する

保線區長歡送迎會

日比野武雄(新)廣住寛二郎(舊)兩保線區長の歡送迎會を明二十九日午後七時から田町大貞、平驛各長會でも兩氏のため明後三十日午後七時から谷口樓で開く

ツツヂ咲く松ヶ岡
青葉の五月は近い
見頃は十五日前後か

『八重椿咲きつぎ春を深めけり』

選擧のドサクサまぎれに『たひらの春』はとう／＼逝つて五月の聲が近い、花を盜つた松ヶ岡は雪洞の影が消えると共にスッカリさびれ返り雨に打たれて散り落ちた花びらが無殘にも土にへばりついて居るのや、取り壞された賣店の跡にも何となく歡樂後の哀愁が潛んで噴水の水もたゞシユー／＼と無表情にふき出してゐるのみだ

×　×

然し第一公園にはもう淸新な初夏の氣分が漂つてゐる、櫻の餘りないここには靑葉の世界が展けて、葉かげにちらつく赤い椿の花にも『五月の感觸』が受けとられる――四百種、その數二千餘株の廣い躑躅園もそつち、こつちに赤い花が咲き出して見頃は來月の十五日前後であらうか、紅、黄、紫、白の色彩のオンパレードこそ例年の事ながら『初夏五月』の松ヶ岡を彩る一景觀である

×　×

五月はまた弗々農家の忙しくなる月だ、苗代への種播が終るとすぐ本田の準備に取りかゝらねばならない

二日八十八夜、六日立夏、二十二日種蒔日は日に增しのびて、蛙の鳴く聲にも眠むたくなる『いゝ陽氣になつたナア……』と八十老爺が背のびをする月『五月』も愈よあと二日である

慘殺死体の身許判明す
平署犯人捜查開始

既報―豐間漁港沖合で發見された義足男の身許は昨二十七日實地檢分の結果耶麻郡木幡村字船引佐藤要(四八)と判明、首實檢に來た實兄才一さんによつて昨夜火葬に附し今二十八日遺骨を郷里に持ち歸つた　一方平署では犯人の捜查に全力を傾注し來援の縣刑事課香內刑事と共に被害者の足どり其他を調べてゐる、同人が十年前浪江で時計修繕業の店を開いてゐた事があるので或は同地に何等かの關係があるのではないかと菊池部長刑事は今二十八日浪江に向つた

×……×
：春の題話：
×……×

◇『神に誓つて　この一票』『正しい選擧明るい日本』等の聲に包まれながら奏でられてゐた『肅選行進曲』もいよ／＼あす一日きりだ◇處で開票後の選擧會だが定員三名のわが第三區分は來月三日午後一時から平第三小學校で開かれると云ふがこんなに三、三、三づくめの年も一寸珍らしい

僞運轉手に一年半
免許證泥の五十嵐に
きのふ平支部の判決

若松市地小路生れ五十嵐市太郎(三六)は二十七日平支部で中島裁判長から立會石合檢事の求刑通り懲役一年六ケ月を言渡された　五十嵐は元自動車の助手をやり、去る二月十一日夜安積郡永盛村笹川地內で停車中のトラック內から渡邊俊喜の運轉免許證を竊取、これを自分名義に改竄し川部村三澤鈴木馨氏方に住み込みマンマと運ちやんになりすましてゐたもの

些細な事から喧嘩
土工二名を殺傷す
今曉田人村地內の慘劇

田人村南大平字提の內小松熊太郎方土工古屋小次郎(五〇)は今曉四時頃同村字小室地內縣道で同字の土工山根春一(三七)同矢村武夫(四〇)の兩名と喧嘩、かくし持つてゐた短刀で矢村の心臟部をつき刺して卽死せしめ、更に山根の脇腹をえぐつて大腸露出、植田署員に捕へられた　急報によつて植田署から久和署長以下現場に急行目下嚴重取調べを進めて居り眞相は判明せぬが古屋は前夜勿來町で飮酒歸宅の途中兩名とすれ違ひ些細な事から喧嘩となつてこの擧に出たものらしい

天氣豫報
小名濱測候所發表

今晩は北東の風晴後曇
明日は南東の風晴後曇

二十九日（小名濱測候所發表）
滿潮　前五、〇〇　後七、二五
干潮　前〇、三〇

選擧常識講座（6）

○選擧の罰則について

選擧の自由妨害罪とは、選擧人に對し投票の妨害を爲し、又は候補者、將來立候補しようとする者、選擧運動者若は當選人に對し、選擧運動の自由を妨害することを言ふのです、卽ち暴行若は威力を加へ又は拐引（他人を誑惑して其の現在地から他所へ誘引すること）して選擧の自由を妨害したるとき、交通或は集會の便を妨げ又は演說を妨害する等僞計詐術其他不正の方法を以て選擧の自由を妨害したるとき、本人又は其の關係ある社寺、學校、會社、組合、市町村に對する用水、小作、債權、寄附其の他特殊の利害關係を利用して威逼（威力を以て他人の自由意志を束縛すること）したるときは、罪と爲ります

○官吏又は吏員が、選擧に關し故意に其の職務を怠り又は職權を濫用する場合も選擧の自由を妨害さるること甚しいものがありますので、之に對しては体刑のみの重い刑罰が科せらるることになつてゐます、選擧界の靜謐を期するが爲、選擧に關し、大勢集つたり隊伍を組んで練り歩いたり、烟火を揚げたり、鐘や太鼓を鳴らしたり、旗を立てたりする等、氣勢を張る行爲をした者がありますと警察に於て之を制止することになつてゐます、若し制止に從はなかつた場合には罪となります

○競爭が熾烈と爲つた場合に於て、選擧關係者が、銃器、刀劍、棍棒、其他人を傷ける樣な危險な物を携帶してゐると、つひ不祥事件を誘發される虞れもあるので、之等の物を携帶して選擧に關係すると、罪に爲ることになつてゐます、選擧犯罪を犯した者に對しては刑罰に依る制裁の外に、當選人の當選が無效と爲ると言ふ制裁も加へられるのです、當選人自らが選擧犯罪に依り刑に處せられますと當選が無效に爲ります、選擧事務長又は選擧事務長以外に事實上選擧運動を總括主宰した者が、買收犯罪の如き惡質の選擧犯罪を犯して刑に處せられますと、當選人は之に連座して、やはり當選が無效となります、又選擧犯罪を犯し刑に處せられた者は、選擧權及被選擧權を停止されることになつてゐます、通常の選擧犯罪であると、公權の停止期間は五年間でありますが、買收犯罪の再犯であると、十年間と云ふ長い期間公權が停止されるのです（完）

毎月一日、十五日謝恩デー

バターはトラピストのバター
品質本位で安く賣る
市川パン店

アンパン　甘食　七ヶ十錢
食パン　黑パン　ロシヤパン　一斤拾貮錢
カルシユウム入　卵パン―十八錢　卵パン―十二枚十錢
ミルクパン―十二枚十錢　カタパン―十五枚十錢
バター　ジヤム　は計り賣りが御徳用です
御家庭御料理用　バター―百目二十五錢
テーブル用(食卓)バター―百目四十五錢
ジヤム　百目二十五錢

名物
磐城の御みやげ品
靈峰（みやま）羊羹　金十錢
姉妹品　柿羊羹。のり羊羹。沼ノ內辨天羊羹。
御旅のお出入には好個のお土産品です。
小賣御希望の方お申越下さい。
小川郷驛前
製造發賣元　平屋賣店

中古各種レール鐵管
礦山用機械器具類
製鐵原料問屋
二大製鐵會社特約店
海軍工廠御用達
銅鐵機械　KS　井尻七三郎商店
出張所　福島縣平町鍛冶町十一　電話五二二番
本店　大阪市南區空堀町三十三番地　電話東五三三四番
支店　吳市藏本通十一丁目一番地　電話二一二〇番
御買上品精々御安く納品致します
御拂下品は精々御高値に買受ます

三十日
滿潮　前五、二八　後八、一五
干潮　前〇、〇五　後一、〇〇

新四月二十九日　木曜　丙戌　先負　破　角宿　舊三月十九日

諸判定應需　東京市本鄕區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠舘

▲一白　一分の隙もなく緊張して萬事に臨めば安全▲二黑　思案に餘れば識者に計り勉强次第にて發展▲三碧　弱き心を引立て諸事に當るもうばいせず勵め▲四綠　餘ゆうしやくしやくとして事に勵せず英氣を發ふが吉▲五黃　眼前の小利に迷はず永遠の計を樹つべき日▲六白　長上の引立を受け出世の端ちよを得る大吉日▲七赤　根强き地盤を形成して希望達成の域に進む▲八白　熱狂にほとばしり常軌を逸して過ちを招くべき日▲九紫　雨降つて地固まり禍も却て福となる金談凶

新四月三十日　金曜　丁亥　佛滅　危　亢宿　舊三月二十日

▲一白　おもむろに開發の準備を整ふべく金運は敗多し▲二黑　發展榮達の幸運日起業緣組普請造作等大吉▲三碧　大利を得んとしてあせれば過誤失策を免れず▲四綠　進んで能く守りて善く進退自由に福祿多し▲五黃　圓滿なる交際を遂ぐれば援助引立の便あり▲六白　他よりの壓迫多く自由を欠き物事はかどらぬ日▲七赤　稼々として不良に傾く守靜肝要妄擧を愼め▲八白　實力を發揮して勇猛せば希望成り家道榮昌▲九紫　遠き慮なくば近き患あり小利に眼くらますな